

平成22年度 北条高等学校定時制課程 「学校自己評価」表(年間評価)

学校教育目標		H22重点目標(中・長期的目標)	総合評価			
生涯学習社会の中で、職場と学校をともに自らを成長させる場と位置づけ、働くことの意味と学ぶことの意味を見だし、自らの人生を見つめ、さまざまなつまづきや失敗の中から、気づきを通して成長していける礼節のある社会人を育成する。また、生徒自らが成長していることを実感できる教育を目指す。	1	学びにおける基礎・基本を習得し定着させ、自らが成長していることを実感させる。	※ひとりひとりにあった対応・指導ができています。就職活動に対する意識も随分高まった。多くの生徒が成長していく中で、一部の限られた生徒について、基本的な生活習慣が身につけていないことが心配。 ※4年生は進路意識を持ち、積極的に授業にも参加し、欠席も少なくなってきた。国語の授業やホームルームなどで、進路意識を醸成するようなビデオや話を積極的に行ったことが、このような結果を生んだと思われる。また、経済情勢もあって、就職が難しいという思いを生徒たちが持ったことも大きかったと思う。いっぽう、3年生はまだ切迫していないこともあって、まだ進路意識を持っているとは言い難い。いろいろな手段で、意識を喚起していく必要があると思う。その結果として授業への取り組みが不十分であり、欠席も多い。 ※生徒にあった指導が出来ていたと思う。少しずつだが挨拶や就職に関して成長している部分が見えるところもあるが、まだ出来ない生徒もいるのでこれからも指導が必要である。 ※4年生は就職に対してとても前向き取り組みができており、出席に日数をみても明らかだと思ふ。3年生は未だ自分の進路に対して真剣に考えられるものが少ない。漠然とした将来の計画を鮮明なものにして来年度は取り組まなければいけない。残る4名(内1名は専門学校希望)は市外に出て就職することも考えているため企業見学など広い範囲で実施していけば効果が出るのではないだろうか。行事の中に見学を数回いれてはどうか。実際に自分の目で見ることにより多くのことを学んで欲しいと思う。			
	2	生き方における基礎・基本として、基本的な生活における礼節を習慣化する。				
	3	自他の生命や身の回りのものを大切にできる心を育成する。				
	4	将来、仕事を通して社会に貢献できる自分をつくりあげるキャリア教育を充実する。				
	5	一人一人の生徒の学びと成長に寄り添った、厳しさと優しさを兼ね備えた指導を実現する。				
		本年度の重点目標	成果	課題と改善策	評価	
	①	基礎学力の向上と定着を図り、たくましく生きる力を育む。	徐々に力をつけてきている ※生徒の授業に対する取り組みは比較的良好になった。 ※知識は、身につけてきたと思う ※少しずつ前進している。	就職試験に照準を合わせたい。 ※就職試験になるとまだ難しい	B	
	②	基本的な生活習慣と礼節を身につけさせる。	挨拶がすこずつできてきた。 ※挨拶は随分できるようになった。 ※挨拶は、できるようになってきた ※全体的にはしっかりとできるようになった。	遅刻などの生活習慣を是正させたい。 ※遅刻を何とかさせないか ※まだ挨拶ができない。	B	
	③	自らの適性を認識し、将来の人生を切り開くことのできるさまざまな能力を習得させる。	将来設計はまだできていない ※一定の目標を生徒たちは持てるようになった。 ※3年生の意識は低い。	いろんな場面での意識付けが重要。 ※目標に向かって能力を獲得するところまでは、いっていない。 ※まだ将来に関して安易に考えているので意識付けが必要 ※企業見学の実施をしてはどうか。 ※	C	
	④	一貫した指導方針の下に全職員が一致して指導に当たる。	指導体制は一貫している。 ※ だいたいできている。 ※指導できている。	細かいところまで詰めたい。	A	
領域	分科	指導の目標	H22実践項目	成果	課題と改善策	評価
教務部	学習指導	① 就職・進路に向けて、基礎学力を充実させ、たくましく生きる力を育む。	評価基準のさらなる明確化と統一性、各授業の態度評価の確認	各授業時間での評価をしている。 ※基準の統一はだいたいできている。	各授業時間の評価の徹底を。	A
			公開授業の充実(機会・回数・勉強会の実施などを検討)	秋期公開授業では、批評会もした。 ※批評会の実施 ※話し合いも出来てよかった。 ※批評会を実施した ※来年度も実施するといふ。 ※批評会の実施		A
	③ 将来に対する明確な目標を持たせ、勉学意欲を高める。	シラバスの充実(教科の目標と生徒の実態を考え、検証・改善をはかる)	四月当初に生徒への案内をしている。	授業者への案内を強化すべし。 ※シラバスは作ったのみになっている。	B	
		年間指導計画の作成・検証・改善		年間計画を充実させる必要あり。 ※できていない。	B	
		授業の発展(教材精選・PDCAサイクル実践・生徒による評価も視野に入れる)	プリントによる工夫はよくなされている。 ※担当の先生方が工夫されている	パソコンによる授業形態の拡大されている。 ※個々の教員に任されている。	B	

下欄の評価は以下の方法で評価している。

- A(80%以上達成できた)
- B(60%以上達成できた)
- C(40%以上達成できた)
- D(40%未満)

領域	分類	指導の目標	H22実践項目	成果	課題と改善策	評価
生徒指導部	生活指導	② 基本的な生活習慣を身につけさせる。	挨拶の励行・時間厳守。	挨拶は少しずつ良くなってきている。 ※挨拶は随分できるようになった ※挨拶は、少しずつだができています ※全体的にしっかりとできていた。	遅刻早退の回数を減らしたい。 ※挨拶が出来ない。 ※数分の遅刻を減らすようにする	B
			授業中の携帯電話の禁止。	習慣づけられてきた。 ※徹底できてきた ※これは以前に比べてよくできている。 ※徹底できていた ※徹底できていた。	もう少し徹底を図りたい。	B
			公共物を大切に。	学校備品等の破損はなくなった。	※物の扱いが雑 ※徐々に改善されている。 ※物を大切に扱う	B
			掃除が自分たちで出来るようにする。	随分とできるようになった。 ※随分出来てきた ※掃除はしなければならないという意識が出来てきた。 ※指導すれば自分たちでできていた ※4年生はしっかりとできていた。	完璧にはもうすこしの努力が要る。 ※さぼる生徒が若干いる	B
	④ 一貫した指導方針の下に全職員が一致して指導に当たる。	生徒指導における重点課題の共通理解を図る	職員打ち合わせ等の時間にできている。 ※その都度、話し合いはできている	問題が少ないため重点課題が不明になってきている。	A	
		生徒一人一人の情報の共有化を図る。	随時出し合い話でできている。 ※これはできている。 ※共有できていた。		A	
		人間的な触れ合いの機会を増やす。	修学旅行などでクラスメイト間の壁がとれた。 ※若い先生方を中心にできている。 ※きずなグループさんとの接する機会はよかった		A	
進路指導部	キャリア教育	③ 自らの適性を認識し、将来の人生を切り開くことのできるさまざまな能力を習得させる。	進路実現のために、生徒一人ひとりの個性・能力に応じた、学力向上に努める。	※就職活動に対する意識は随分高まってきた ※学力向上まではいっていないが、意識は高まった。 ※就職に向けての意識付けは出来ていた	もっときめ細かい指導が必要か。	A
			職業安定所や進路指導研究会において情報収集につとめ生徒の進路達成に役立てる。	情報収集や職員への火共通確認はできている。 ※これはよくできた。 ※職員のあいだでは、情報提供はできていた		A
			全日制の進路指導部と連携し、上級学校の情報収集につとめ、生徒の進路達成に役立てる。	指定校推薦の利用等の相談はできている。 ※希望者が少ないため個別対応となった。 ※就職状況や求人表など情報交換は、できていた		A
	③ 現実社会で生きていくうえで必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。	生徒の職業観の形成や進路意識の向上のため、進路講演会や、進路HRにを計画的に実施する。	外部講師の選別で九郎はするが、少しずつはできている。 ※これはよくできたが、職安からの話が十分に出来なかった。	公的機関の講師派遣など充実して欲しい。 ※生徒にあった外部講師を見つけることが難しい	B	
		全教科の授業を通して、授業内容をまとめ、自分の意見を発表する力の育成や、計算能力の向上を図る。また、面接指導などを通じてコミュニケーション能力を育成する	就職の意識付けに伴って、発言や文章表現は少しずつできてきた。 ※文章で表現することに関して成長している	新しい場所などで、どの程度出来るか不安。	B	
総務部	学校運営	④ 諸会議において、業務の重要性や緊急性を考慮する。	会議での進行においては、無駄を省き、短時間で要点を確認しあえるように努める。	事前のプリント配布によって時間短縮がなされている。 ※前日までの資料配付 ※よくできた。 ※計画的で円滑な運営だった。		A
			議論の必要な場面では、徹底して行う。		もっと白熱した意見討論があてい。 ※意見がでにくかった。	B
保健衛生部	保健衛生	④ 健康の保持増進を図る。	生徒の健康状態を把握し、保健教育・保健指導等を通して、自主的な健康管理の育成をはかる。	その都度検温などの処置を行っている	無理をせず病院に行く。	A
			教職員、保護者、学校医、キャンパスカウンセラー等の連絡を密にし、教育相談体制の充実を図る。	四月当初に行った体験カウンセリングは有効だった。 ※4月の体験カウンセリング		A
			感染症を予防する。	随時インフルエンザ等の情報は流している。 ※情報提供は、出来ていた	あまり関心を持ってなかった	B
			④ 補食給食の内容と指導を充実する。	衛生面に注意し、給食マナーの指導をする。		生徒の給食の扱いを改善させたい。 ※マナーが悪い
	④ 希望する生徒がしっかりと給食を摂ることができるように内容を検討する。	食品内容は「よく検討されている。 ※生徒の事を考えながら検討されていた			A	

領域	分類	指導の目標	H22実践項目	成果	課題と改善策	評価
人権教育	人権	④ 男女共同参画社会についての正しい認識ができる能力を身につけさせる。	デートDVの被害者や加害者にならぬようにデートDVについての講習会を行い理解を深める。 外部講師を招き、講演会を実施する。	外部講師を招いての講習ではよく聞いていた。 ※3年目で理解が進んだと思う。 ※生徒も積極的に取り組んでいた ※生徒の理解度は明らかに上がっている。 ※生徒なりに考えていた		A
		④ 発達障害や知的障害の正しい知識や理解をし、差別や偏見を無くす。	人権啓発映画の鑑賞(12月実施予定) 人権教育推進委員会を開催し、役割分担を明確にし、意見交換を密にする。	人権映画の内容は良かった。 ※映画は一生懸命見ていた。 ※人権映画の内容は、生徒にとっても分かりやすかったと思う ※継続的な授業により少しは理解を深めたと思う。 ※内容が良かった		A
情報教育	情報	④ 情報モラルや情報リテラシーの向上を図る	情報授業中におけるネットトラブル防止についての啓発。 地域貢献事業の制作物の計画・作成・指導。	授業中にトラブル防止が啓発されていた。	十分出ていない。	B
		④ 教職員の個人情報の管理を徹底する	職員使用のパソコンについての確認事項や個人情報取り扱い及び、保存用外部メディア使用上の注意の配布・確認。 保存用外部メディアの更新作業。	その都度行われている。	もっとパソコンを利用すべきだ 重要情報の保護を徹底したい。 ※規程の読み合わせが必要。	C B
		④ 規律ある生活習慣を育成する。	日々の生活習慣の是正とあたりまえのことが正しくできるよう生活習慣の改善と助言指導。	挨拶等の意識喚起は常にできている ※出来るようになった生徒がいる。 ※挨拶ができるようになってきた ※まだまだ努力がある。	データ保存用のパソコンにすべて入っていない。	B
3年	② 基本的な生活習慣の確立する。	基本的な生活主観がつくように規律ある生活習慣と、常に相手を敬う言動を身につけさせるように指導を行う。	出来るようになった生徒がいる。 ※不規則な生活が遅刻・欠席・体調不良に繋がっている。	遅刻早退の軽減を目指す。 ※まだまだの生徒がいる。 ※欠席、遅刻、早退が多いので減らすようにする	C	
	③ 自分の進路についてのキャリア教育を充実する。	生徒個人個人の適応能力の習得。具体的には生徒に目標を持たせその目標に近づけられる様に指導してゆく。 進学、就職、個に応じた指導をする。 HRなどを利用した全体的な活動と、グループ面談・個別面談等を実施する。	いろんな場面で将来への意識付けが行われた。未だ真剣な姿勢は見えない。	※目標の決まっていない生徒が多いように思われる。 ※来年度じっくりと取り組む必要有り。	B	
4年	③ 希望進路の実現に向けての支援。生徒が、卒業してよかった、この学校でよかったと思えるように、学習活動・特別活動等の内容を検討し、計画的な実践と検証を怠らない。	進学、就職、個に応じた指導をする。 HRなどを利用した全体的な活動と、グループ面談・個別面談等を実施する。	面談回数も増やし徹底していた。 ※指導はよくできた。 ※生徒の意識も変わってきていたので面接練習など積極的に取り組めた		A	
		安易に欠席させない。 欠席した生徒・家庭へのこまめな連絡。興味・関心・理解を高めるHRの工夫	こまめな家庭連絡が功を奏した。 ※1学期はよかった。 ※各家庭には、まめに連絡できていた ※こまめに家庭連絡をしていた	※2学期以降休みが増えた。	A	

<自己評価から>

生徒数が減少した結果、各生徒に時間を割いて対応できたのではないかと。たとえば、生徒全員にキャンパスカウンセリングを体験させることができたし、就職指導においてそれぞれにじっくり時間をかけ、個に応じた指導ができた。特に、4年生は就職に対する意識も高く、進路に関するHR、総合的な学習の時間、講演会などこれまでになく真剣に取り組めた。担任をはじめ、各教員が様々な場面で、意識改革を行ってきたことが実ってきた結果であると思われる。一方で、遅刻・欠席に関しての意識はなかなか改善が見られなかった。学校を休むということに対する意識が、根本的に間違っているが、それを改善するにはどうすればいいか、答えが見いだせないままである。定時制にとって永遠の課題かも知れない。また、挨拶や、清掃の指導についても成果が現れてきている。しかし、一般的レベルから見るとまだまだ指導を継続することが大切である。

会議や行事の運営、準備など、共通理解は図れており、スムーズに運営できたとは思うが、これも職員・生徒が少ないから可能なのであって、決して満足できる状態ではなかった。もっと、様々なアイデアを出し合い議論する場が作れたのではないかと。職員の年齢構成、経験等がアンバランスであるため、仕方ない部分はあるが、職員会議へ出るまでにじっくり練り上げる必要があった。よりよいものを作るための準備を怠らないことが大切である。もっと意見を戦わせる場面を作っていく必要がある。そのためにも、各委員会や、検討会は定期的に開催されるべきであった。

最後に、全体的に見て、おおむね良好な評価が得られた。しかし、Cの評価が出ているところはしっかりと改善していく必要があるし、来年度は最後の1年であり、生徒数が4人という事で、これまでとは全く違った状況が予想される。様々な条件をメリットとしてとらえ、どう生徒を伸ばしていくか。しっかりと準備をしていく必要がある。